

NO!リニア

No.154

2022年10月18日

JR東海労働組合

JR東海労HP
にアクセス↓



国・会社 反対尋問できず!

ストップ・リニア! 訴訟 証人尋問

10月17日「ストップ・リニア! 訴訟」の原告側証人尋問が行われ、多くの組合員が傍聴しました。

午前中は、地生態学者(ジオエコロジー)の小泉武永先生が約1時間にわたり、南アルプスの生態系、地層、等について証言し、最後に丹那トンネル工事で漏れだした水は芦ノ湖の3杯分で、丹那盆地で行われていた稲作やわさび栽培はできなくなったと指摘しました。これに対して、被告・国は「証人は地生態学者であって土木工学やトンネル工学の専門ではありませんね」の一言のみの反対尋問にとどまりました。また補助参加人・JR東海からの反対尋問はありませんでした。

午後からは、松島信幸地質学者と天野捷一原告(リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会共同代表)の尋問が行われました。松島さんは、南アルプスの地質の問題から、トンネル工事の無謀さを指摘しました。反対尋問は、小泉さんと同様「土木工学やトンネル工学の専門ではありませんね」のみで、傍聴席から失笑が漏れ出しました。JR東海の代理人からは「国交省の有識者会議の発表で大井川に湧水を戻せば問題ないとなっているのを知っていますか?」だけでした。

天野さんは、地域説明会のずさんさと川崎市におけるリニア建設のメリットについて証言しました。反対尋問は「あなたは、JR東海の説明会にご不満があると言うことですね」「リニア建設は、あなたにとって何もメリットがないと言いたいのですね」の2点のみで、個人的問題で証言していると導きたいという姿勢があらわでした。JR東海からの反対尋問はありませんでした。

次回第25回口頭弁論(11月7日)では、原告と原告側証人に対する尋問が行われる予定です。